

## ネオワイズ彗星見参！

雨雨あめやめ

「彗星のごとく現れる」という言葉は、ある日突然颯爽と登場しスターダムにのし上がるといった意味でつかわれます。2020年3月にNASAの赤外線天文衛星ネオワイズにより発見されたネオワイズ彗星(C/2020 F3)は、7月3日に近日点を通過し、久々の大きな彗星として明け方の東空に現れました。これに先立つこと、アトラス彗星、スワン彗星と、明るくなると期待されていた彗星がいずれも鳴かず飛ばずだったので、3度目の正直として満を持してのスペシャルイベントになる筈だったのに、今年の7月は例年になく梅雨が長引き、彗星を見るチャンスがいつ訪れるのか、毎日やきもきしながら空を眺める日が続きました。

そんな中、奇跡的に彗星の姿を捉えた人の話によると、ドン曇りだからと諦めるのではなく、水平線に近いところに雲が切れることがあるためダメ元でも空を見なければいけないとのことでした。

そして7月16日の朝、目覚ましに起こされて眠い目をこすりながら階段の踊り場に出て空を見ると、あにはからんや待った雲の切れ目が現れました。あわてて奥さんを起こし、カメラ・三脚・双眼鏡を持ち出してきたセットアップすると、本当に雲の隙間ちょうどのところになややかに尾をたなびかせた彗星の姿が見え、ようやく初見となりました。



その後も悪天が続き、FBなどで彗星の勇姿がアップされるのを羨ましく眺めながら天候の回復を待っているうちに、彗星は夕方の空にまわってきました。そして3日後、7月19日の夕方に天候が回復し、このチャンスに賭けて、地平線がよく見える近所の公園(天白遺跡)に出向いて彗星を迎えました。双眼鏡で見ると、僅かに右にカーブした尾がととても上品で、ほんとうに久しぶり(2013年のパンスターズ彗星以来か?)に彗星らしい彗星に会うことができ、とても嬉しい気持ちになりました。



左：2020/7/16 3:34 Exp.2sec

上：2020/7/19 20:26 Exp.3sec×5

NikonD5100 180mmF2.8

その後、当地では8月1日ごろにようやく梅雨が明け、天候も安定してきたものの、空の方は水蒸気がいっぱい白い霞がかかったような状態にな

って、殆ど星空が見えない日が続きました。

その間にも彗星の方はどんどんと遠ざかっていって、肉眼等級から外れそうになっていたころ、8月11日によやくすっきりとした空が戻ってきたので、彗星にお別れ言うために再び同じ公園にかけました。撮影を行いながら双眼鏡で見た姿は、すっかりと小さくなっていましたが、短い尾が最盛期の面影を残していました。

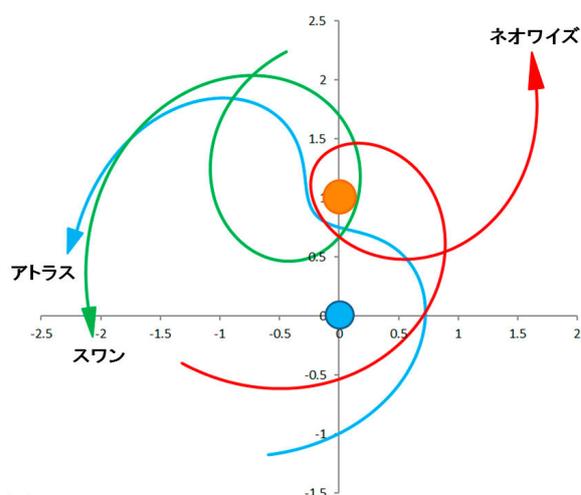


上：2020/8/11 20:45 Exp57sec×4  
NikonD5100 Pentax100SDUF

なんだかんだといいつつも、今回のネオウィズ彗星は、要所要所で3回も見る事ができ、素敵な天文現象だったと満足しています。

ちなみに、冒頭で紹介した3彗星のうち、近日点通過後に地球に近い方に向かってくるのはネオウィズ彗星だけで、他の2彗星は太陽の向こう側に行ってしまう軌道を描いていました。そういった点でも、ネオウィズ彗星はとてもスジのいい彗星であったということが言えるのではないかと思います。

さて、次はいつどんな明るい彗星がやってくるのか、期待して待ちたいと思います。



上：太陽と地球を固定して彗星の軌道を描いた図  
アトラスとスワンは近日点通過後太陽の向こう側へ、ネオウィズは地球に近づく軌道を描く。

## コロナ対策 飲用可かもしれませんが決して飲まないでください

松阪市天文台でも6月から観望会を再開しましたが、いわゆる三密を避けるため、望遠鏡のドームに入る人数を制限して1グループずつ交代制にしたり、ローテーションの都度、脚立や望遠鏡の接眼部を拭いたりして対策しています。

望遠鏡を拭く際、ドラッグストア等で普通に売られているアルコール洗浄液は、グリセリンなどの不純物が含まれているので、ガラス面等への付着を考慮して使用を避け、無水アルコールを少し希釈したものを使用してきました、

しかし、いよいよ在庫も尽きてきて、かといって純粋なアルコールは相変わらず入手難なのでどうしようかと思案しておりましたところ、黄桜のアルコール（酒？）がいい感じの値段で販売され

ていて、成分的にも問題がなさそうだったので、購入してきました。当分はこれでのげそうですが、会計の精算のときに誤解されないようにしなければいけません。

それにしても、このコロナ禍で、全国の公開天文台では市民観望会にあたってどういった対応をしているのかとても気になります。



## 編集後記

今回はネオウィズの記録であります。やっぱり彗星を追いかけるのはとてもわくわくします。